

まちぴあ

身近なつながりに出会おう



TAKE FREE
無料

特集 市民活動助成金の交付団体をご紹介

まちなかメディカルカフェ in 宇都宮



ほっとねっと ～笑顔の子育て応援～ エンジェルライン

まちぴあ通信 宇都宮東ローターアクトクラブ 地域の情報局 富屋地区

まちづくり言いたい放題 十八歳参政権について



参加者の皆さんがリラックスした雰囲気の中でお互いの病気や悩みについて語り合う

異業種のスタッフが集い 安心できるサポート体制

がんなどの悩みを抱えている患者や家族と、医師や看護師らがお茶を飲みながらリラックスした雰囲気の中で安心して語り合う「まちなかメディカルカフェ」は、宇都宮市江野町の下野新聞NEWS CAFEを会場として提供してもらい月1回、第4日曜日の午前中に開催しています。

取材で訪れたこの日も医師や看護師をはじめ、カウンセラー、NPO代表など実にさまざまな職種のスタッフ約30名がボランティアで会を運営していました。

この日の参加者は、初参加という方も含めて21組。参加者よりもスタッフの人数が多いことにはびっくり！

市民活動助成金の交付団体をご紹介

がん患者に
癒しを提供する

まちなか メディカルカフェ

in 宇都宮

ボランティアやNPO団体にとって資金調達は永遠の課題。原則返済義務のない助成金は活用したいところですが、「仕組みがわからない」という悩み抱えたまま、せっかくのチャンスを見逃している団体も多いはず。そこで実際活用している団体にお話を伺ってきました！

また、カフェの1階は医療スタッフによる個人面談のスペース、2階はグループディスカッションを行うスペースと分かれていて、参加者は希望するどちらかに無料で参加できます。このように、文字どおり二階建ての手厚いサポート体制が整っていることに正直驚いた次第です。

多くの人に届きたい！ 本当に必要な心のケア

メディカルカフェが初めて開催されたのは2013年の4月のこと。自身も乳がんの手術を経験したという代表の平林かおるさん(57)は、「リレー・フォー・ライフ」という、がん征圧の願いを込めて交替で夜を徹して24時間歩き続けるイベントに参加したことに基づきかけとなり、このカフェを開催する



宇都宮ピアノ研究会による演奏と合唱



参加者に振る舞われるお手製のケーキ

決意を固めたそうです。

「がん患者やそのご家族の中には、病気に對する不安や病院で説明を受けただけでは解決できない疑問を抱え、悩んでいる人も少なくありません。日本では欧米のように心のケアを行うカウンセリングが日々の生活の中で普及していないという事情もあり、対話によってそのような悩みを寄り添う場が絶対に必要だと考えています」

平林さんは、自身も医師という立場でがん治療を受けた当時の記憶に思いを馳せながら、カフェ開設に至ったその胸の内を静かに語ってくれました。

開設後は、カフェも回数を重ねるごとにスタッフそれぞれが主体的に



まちなか メディカルカフェ —基本方針5カ条—

1. 通常の診察や治療など診療行為は行わない
2. 守秘義務を順守する
3. 詮索しない／批判しない／強制しない
4. 特定の宗教、治療などを流布しない
5. 対話を通じて病気の方の悩みに寄り添う

助成金審査会にて活動内容を説明する平林代表(上)
新しいメンバーにも基本方針5カ条を徹底している(下)

こう話してくれたのは、初年度よりスタッフとして参加し、事務局を担当している市川明さん(63)。

役割を担ってくれているおかげで「代表だから大変」ということは「何もない」と言います。また、一度相談に訪れてから、やがてスタッフに加わる人もいて、そのような患者さん同士のつながりが生まれていることは大きな成果のひとつであり、主催側の喜びでもあるようです。

一方で課題も少しずつ見えはじめています。2人に1人の割合でがんにかかると言われている現代で、がんをはじめとして病気で悩んでいる人、その家族も少なくありません。でも実際に、どれだけの人にこのカフェの存在を届けられているのか。

「中でも、一歩も外に出たくないというほどメンタルが落ち込んでしまっている人にこそ、その心の内を吐露してほしいと思っています。そのために私たちには何ができるのか……」

ここだけはおさえておきたい 3つのポイント!

■ NPOやボランティア団体にとって、「活動資金の確保」というのは活動を続けていく上で最重要な課題のひとつ。その活動資金を確保する手段として、様々なもの(事業収益、補助金、寄付金など)がありますが、今回は宇都宮市ならではの「市民活動助成事業」についてわかりやすくご紹介したいと思います。

① どのコースでいくら申請するか?

- スタート支援**
立ち上げて間もない団体が、これから事業を開始し継続できるよう、団体の自立化を支援
10万円以内 (助成対象経費の50%) 1団体あたり1回限り
- ステップアップ支援**
おおむね2年以上経過した団体が、継続してきた事業の拡大や新規事業の開始など、団体の更なる発展・活発化を支援
30万円以内 (助成対象経費の50%) 1団体あたり2回までOK
- 連携支援**
団体が、地域活動団体や社会貢献を行う事業者など2つ以上の団体と、事業計画や役割分担を決めて実施する連携事業を支援
30万円以内 (助成対象経費の50%) 1事業あたり2回までOK

② どのような使い方ができるの?

- OK**
 - 報償費(講師謝金など)
 - 旅費、交通費など
 - 消耗品費(図書購入、文具代など)
 - 通信費(郵送料など)
 - 使用料(会場使用料など)
- NG**
 - 事務所の家賃やスタッフの人件費
 - スタッフの飲食及び親睦に要する経費
 - 対象期間外に支出した経費
 - 領収書や受領印で確認できない経費

③ 申請から交付までの流れ



※時期は変更になる場合があります。詳細については、広報つづのみや及ヒP.Dにお知らせします。

宇都宮市みんなでまちづくり課 市民活動グループ
TEL. 028-632-2886 FAX. 028-632-3268
E-mail: u2207@city.utsunomiya.tochigi.jp

市民活動助成金を活用しよう



ひらばやし 平林 かおる さん
■ 栃木県立がんセンター病理診断科医師
■ がんカフェとちぎ代表、娘2人は独立し、現在は夫、愛犬2匹と壬生町在住。5年前に乳がんになり、9カ月休職して治療した後、職場復帰。

助成金の主な使い道は、毎月開催するカフェのチラシ作成や年一回開催する大きな会場での講習会費用などに充当。いずれも、(20万円)が交付されました。そのおかげで、ある特定の個人だけが金銭的負担を強いられることなく、これまでの活動を続けていられるそうです。

このように助成金を上手に活用することで、その団体はもちろん、街も人も元気になってくれます。特にメデイカルカフェの取り組みは、全国に誇れるすばらしい事例ではないでしょうか。今回、実際に活動現場を見せていただいた。あらためてその思いを強くしました。

ボランティアやNPO団体といえども、より多くの人に活動を認知してもらいサービスを利用してもらうには、ヒト・モノ・カネといった最低限の経営資源が必要不可欠。とりわけ人的資源にのみ過度に依存しがちなこの業界で、持続可能な取り組みを構築するためにも、ある程度ゆとりある運営資金の確保が必要です。そんなとき、是非

活動に弾みがつくのが
助成金のいいところ

『がんを語り合う広場』の公募助成(60万円)、2015年度は宇都宮市『市民活動助成金』(20万円)が交付されました。そのおかげで、ある特定の個人だけが金銭的負担を強いられることなく、これまでの活動を続けていられるそうです。

「助成金交付のおかげで取材依頼が増えている。いろいろなホームページに私たちの活動を紹介していただきました。また、メデイカルカフェのゲストとして、ピアノ研究会さんが演奏しに来てくれたのも市民活動助成金のおかげだったんですよ」と市川さんの表情から笑みがこぼれます。

ともチェックしたいのが原則的に返済義務のない、ボランティアやNPO活動関連の助成金情報。
メデイカルカフェでは、年会費や寄付金など一定の収入こそありますが、活動をはじめてまだ日が浅いこともあり、それだけで全運営費をカバーするまでにはほど遠いと言います。そんな経済事情もあって、自分たちの活動趣旨に合う助成金情報を調べて、実際に応募申請。その結果、2014年度は『がんを語り合う広場』の公募助成(60万円)、2015年度は宇都宮市『市民活動助成金』(20万円)が交付されました。そのおかげで、ある特定の個人だけが金銭的負担を強いられることなく、これまでの活動を続けていられるそうです。

このようなカフェを本当に必要とする人にその存在を知ってもらおう上で欠かせない活動です。
さらに、助成金の効果は金銭的なサポートだけでなくとどまらないと言います。

市民活動助成基金に寄附するには

- 所定の寄附申込書に必要事項を記入のうえ、市役所10階みんなでまちづくり課に直接、またはファクス、郵送でお申し込みください。
- まちびあにも募金箱が設置してあります。皆さまからいただいた募金は、匿名にて市民活動助成基金へ寄附されます。

平成26年1月1日～
同年12月31日までの寄附金総額は
1,155,534円

寄附すると

- 市ホームページ、宇都宮市まちづくりセンター「まちびあ」情報紙で氏名をご紹介します(匿名可)
- 宇都宮市が定める金額以上の場合、感謝状を贈呈
 - 助成金審査会の開催案内や結果の送付
 - 助成金交付団体による事業報告会の開催案内を送付
 - 税制上の優遇があります

■ 宇都宮市ではボランティア活動やNPO活動を活発にし、さらに広げていくために、これらの活動を応援する「市民活動助成基金」を設置。この基金の特徴は、「マッチングギフト方式」を採用し、「活動を応援する気持ち」である市民からの寄附金と同額を宇都宮市からも支出してその合計額を積み立てしているところにあります。



市民活動助成金

助成 市民活動助成金 審査会
NPO・ボランティア団体

熱々のチャリティ鍋を食べて 市民活動が応援できます!

★ 毎年大好評の恒例企画「第9回 チャリティ鍋企画」が開催されます。屋台横丁店主が心を込めてつくったオリジナル鍋をご用意。熱々の鍋で身も心もぽっかぽか。売上は宇都宮市市民活動助成基金に全額寄附されます。

2016年1月22日(金) 19:00～22:00



個性豊かな美味しい鍋が
いろいろ楽しめます
1杯100円～

これまでの寄附金累計額
114万円

※過去のチャリティ鍋の様子

まちづくり活動の仲間が目指すもの

ほっとねっと

No. 16

「子育てで近くに頼れる人がいない」「もうすぐ出産だけど退院後が不安」「働きたいけど子どもの体調が心配」そんな悩みの多い育児だからこそ、求められるサービスは多様です。今回は、様々な子育て支援を行っている活動者の皆さんをご紹介します。

笑顔の子育て応援 エンジェルライン

「家族みんなに寄り添う」

乳幼児の預かりや小中学生の送迎、ちよつとした家事など、子育て世代の多様なニーズに合わせた支援活動をしているエンジェルラインさん。産後ケアや体調不良児保育、法人向けサービスも行っています。設立から約10年間で、およそ8000件のサポートを行い、多くのご家族を支



利用者さんのご希望に沿ったプランでベビーシッターや産後ケアなどを手伝います

えてきました。

画「サービスでない、それぞれの利用者さんに合わせたサポート体制をつくるために大切にしているのは、「寄り添うこと」そして「事前打合せ」で利用者さんの希望を細かく聞き取ることです。希望をできるだけ叶えられるよう、必ず丁寧に時間をかけて話し合います。

「仲間にも気づかいて」

現在活躍している保育サポーターさんたちがエンジェルラインを知ったのは、チラシや新聞記事、知人の紹介など。自分が子育てに苦労した経験や資格を活かし、ママのつらさを手助けしたい・社会の役に立てることをしたいと、活動に加わりました。こちらの皆さんは、サポーターが長く安心して活動できるように、定期的に研修会を企画しています。研修会では、経験を積んだ仲間や病院の先生などの各専門家を呼んで、最新の知識を勉強します。また、



利用者と保育サポーターが集う交流会
子育ての情報交換の場にもなります

サポーターの心構えやサポーター自身の心のケアをテーマに話し合うサポーター会や親睦のための交流会もしています。

「ママの笑顔のために」

印象に残った経験として、「東日本大震災の日」、学校から習い事までの送迎サポートがありました。信号機は停電、電話もつながらない。お子さんの要望を聞きながらできる限りの対応をしました。やっとお母さんにお引渡してきたときには、とても感謝していただきました」と話してくださいましたのは理事長の寺崎さん。他のサポーターさんからも急な高熱に対応したこと、初めての高熱ハイを見られたこと、家族ぐるみのお付き合いに発展したことなどを話していただきました。親身になった子育て支援をされているのが伝わります。

「市が子育てにやさしいまちになってほしい。みんなできつっていききたい」という

取材後記

利用者さんの希望を叶えることで信頼を得て、新たなニーズを発掘し、きめ細やかなサービスを実現しています。サポーターさんたちの思いやりの言葉が伝染し、取材後は記者も優しい気持ちになれました。(齋藤)

エンジェルライン (運営：NPO 法人 仕事と子育て両立支援センター)

〒321-0954
宇都宮市元今泉5-9-7
まちびあオフィス内 (9ブース)
TEL. 028-908-7320
(平日9時～17時)
FAX. 028-908-7253
E-mail: info@angel-line.jp
URL: http://www.angel-line.jp



保育サポーターの皆さん

ご利用会員 & 保育サポーター会員募集中です

思いのもと、ママパパとお子さんたちやご家族の笑顔のために、エンジェルラインさんはこれからも一つひとつの声に寄り添って活動していきます。

ちよつと気になる

コレクション

みんなの協力があつてこそその『リサイクルせっけん』



手作り石けん

DATA：200円/2個入り
販売所：わくわくショップU（市役所1F）
とちぎセルブセンター（とちぎ福祉プラザ1F）
道の駅友遊はが、元気あつぷ村など
問合せ先：とちぎライトセンター
〒321-3236
栃木県宇都宮市竹下町1200
TEL. 028-670-3171

地元の料亭が提供してく

れる廃油やご近所の方が寄
付してくれる食用油を用い
て、視覚障がい者が心を込め
て作っている100%手作りの
石けんです。パッケージも
パソコン操作を学んだ人た
ちが作ったロゴ入りのかわい
い包装紙を使っています。

これを作つて

いるのは、「自分たちがいな
くなくてもわが子が幸せに生
きていけるように」と願う親
心から、生活訓練と職業訓
練を目的につくられた「とち
ぎライトセンター」という施
設です。センターでは24名の
利用者が自立を目指し、点
訳や石けんづくりなど様々
な仕事に取り組んでいます。
支援員や多くのボランティア
の協力を得て、環境にも心
にも優しい石けんがにつくら
れているのです。台所の油污



通所4年目のタカシ君も心を込めて石けん作りに励んでいます

とっておきの

関心空間

地域へオープン
「カフェさくら草」

月一回のペースで地域の
人々が集うカフェをご紹介
します。

宇都宮市京町にある日本
パブテスト連盟宇都宮教会

MACHI DUKURI TOPICS



「まちづくりって何？」
そんなアナタにディープな
地元ネタから、今が旬の
レア情報まで、まちびあから
“まちパワー”を発信します!!

のスペースを借りて活動を
しています。さくら草は主婦
を中心としたボランティアア
グループで、平成10年から在宅
高齢者や障がい者の方向け
に栄養バランスのとれた手
作り弁当の配食を行っていま
した。活動を続ける中で、認

知症の人やその家族を応援
したいという思いから、憩い
の場として平成26年4月よ
り地域交流カフェを始める
ことに。

こだわりのつまつた500
円ランチは、季節に合わせて
食材を変え、バラエティーに
富む手作りの家庭の味を食
べることが出来ます。

誰もが安心して集える場を

うつのみや発の

「秘密基地で遊ぶ会」
10年目を迎えて

定年退職後、農業をする
傍ら取り組んできた活動
「秘密基地で遊ぶ会」も近年
では年間1600名程の参

話題人

加者がいるそつです。

同じ場所にいる数人の子ど
もたちがそれぞれゲームを
して一緒に遊ばない様子
を見て、日本の将来に対する
危機感を覚えたのが発端で
す。本来子どもは遊びの中
で「発想」「人つき合い」「決まり」
などを学び、人間性や可能性
を育んでいくものであるは



イカダ作りを終えてツリーハウス
“秘密基地”の前に勢ぞろい

ず。そんな熱い思いから2年
かけ、やっと自宅の庭にツ
リーハウスを完成させまし
た。その後も竹筒炊飯やイカ
ダ遊び、流しそつめんなど、
一年を通して野外でのイベン
トを企画し様々な遊びを教
えています。

「子どもらの笑顔がいつば
いでああ」と笑顔を輝かせつ
つ目頭を熱くする平出さん。
今後の遊び場作りに期待が
膨らみます。

平出清一さん

役職 秘密基地で遊ぶ会 代表
好きな食べ物 味噌ラーメン



カフェ・配食に向けて準備中。
二つに手間のほど愛情を込めて

毎月第3木曜日（祝日の場合はお休み）
ランチ500円、ケーキ・飲み物各100円
営業時間：11:30~14:00（ラストオーダー 13:00）
宇都宮市京町15-24
日本パブテスト連盟宇都宮教会内
TEL. 090-2403-3246
E-mail: ehiraishi12feb@yahoo.co.jp
URL: <http://sakurasou.wix.com/sakuraso>
Facebook:
<https://www.facebook.com/cafesakurasou/>

カフェさくら草

まちぴあ通信

まちぴあ登録団体紹介

将来の社会を担う人材育成

皆さんはローターアクトクラブという活動団体をご存知ですか？ 国際的な社会奉仕団体ロータークラブが提唱し、18〜30歳までの青年男女で構成されたグループです。栃木県のみならず、日本各地、世界各国に支部があり、奉仕活動をはじめ様々な活動をしています。

宇都宮東ローターアクトクラブさんには、大学生やエンジニア、医療・福祉関係者、留学生など様々なメンバーが在籍しており、周辺地域の清掃活動や足尾銅山の植林活動、児童養護施設でのボランティアなど活動を行っておられます。活動の実施については、まちぴあを中心に



フレッシュなメンバーが集まっています。メンバー募集中!



栃木県内で開催された地区年次大会での1コマ

団体名

**宇都宮東
ローターアクトクラブ**

連絡先 TEL. 080-9191-9748

E-mail: east.utsunomiya.rac@gmail.com

Facebook: <https://www.facebook.com/2550rac>

月2回の定例会を催してメンバー間のミーティングを行い、定期的な活動を盛り上げるためにアイデアを出し合い、一つ一つ形にして取り組んでいるそうです。

こうした活動を展開・運営していく中で、個々の能力開発や知識、技術の習得をはじめ、地域や人々との出会いをつくることで、奉仕の精神を育んだ人材へと成長されていくでしょう。若手の中でも違う年代、性別、国籍が異なる若者たちが集うローターアクトクラブさんは、単に活動をしていくだけでなく、自ら考え、他と調和し、社会に貢献していくという理念の表れだと感じました。そんな中で築ける仲間との関係はかけがえのないものだと思います。「交流の幅を広げたい」「リーダーシップを磨きたい」「自分を成長させたい」……そんな想いのある方は、見学大歓迎ですので、一度活動を見てみませんか？

地域の 情報局

今回は
「富屋地区」

「と・くじらカフェ」～女性が主役の居場所づくり

宇都宮市富屋地区で、新たな地域の居場所づくりが始まっています。「とみや女性学」は、富屋生涯学習センター主催講座として、平成25年2月から、地域を女性の視点から盛り上げるまちづくり的観点と、活動に活かせる知識などを学んでいる講座です。受講者たちの「富屋地区に今日行く場所がほしい」「生きがいの場所がほしい」との思いをもとに、居場所づくりを

模索中の現在、活動の第一歩として、今年の11月1日に、「とみやふるさとまつり」で『と・くじらカフェ』をオープンしました。

地域の女性たちが講座で学び、交流し、アイデアを出し合ったカフェは、まつりとは一味違う空間で、女性たちが地域に積極的に関わるやりがいと生きがい、世代間の交流など出かけてみたくなるような工夫が凝らされた場所でした。このカフェをきっかけに今後は独自の活動を目指して

いるとのことで、富屋の人材と資源を活かした今後の展開が楽しみにになりました。

宇都宮市富屋生涯学習センター
(富屋地区市民センター内)
TEL. 028-665-1663



カフェの様子



とくじらカフェの皆さん

書籍紹介
陣内先生が推奨する
この一冊!



高橋亮平・小林庸平・菅源太郎 他

「18歳が政治を変える!

—ユース・デモクラシーと
ポリティカル・リテラシーの構築—
現代人文社 2008年10月



photo©2003

陣内 雄次
プロフィール

2007年、宇都宮大学教育学部教授。NPO法人宇都宮まちづくり市民工房の理事長としてまちづくりの実践にも関わるとともに、コミュニティカフェ「ソノツギ」を運営している。著書に「コミュニティ・カフェと市民育ち」など。

このコーナーでは市民のみなさん、市民活動関係者、行政関係者などからのご意見、ご感想をお待ちしています。紙面上での意見交換へと発展することを期待します。ご意見・ご感想はまちびあ広報部へ。

陣内先生の

ま
ち
づ
く
り

言
い
たい
放
題

16

十八歳参政権について

改正公職選挙法が昨年成立しました。このことにより、選挙権年齢が十八歳以上となり、これまで選挙権がなかった約二百四十万人の十八歳と十九歳が有権者になった訳です。国政選挙としては、今夏の参院選から適用されることとなります。

国政選挙のほか、地方自治体の首長や議会の選挙、議会解散の請求(リコール)なども、十八歳引き下げの対象となります。同時に、重大な選挙違反をした場合、十八、十九歳も成人と同様に刑事裁判の対象になります。このように、十八、十九

歳の男女には、有権者としての責務を遂行することが今後期待されます。

世界の大半の国では選挙権年齢は十八歳以上であり、また、シルバードモクラシー(民主主義における高齢者の過剰な影響力)への懸念、そして何よりも、日本の将来を担う若年者の意見をもっと政治に取り入れる、ということが今回の改正の背景・目的であると考えられます。

一方、これら若年者自身に参政への要望があったのかという疑問や、選挙民としての十分な意識があるのかという批判を耳にします。だからこそ、まずは身近な生活環境である居住地や通学地のこと(地方自治)に関心を持ち、そこから国政に拡げていくということが重要ではないでしょうか。

近年、栃木県内では、鹿沼市、栃木市、日光市などで高校生たちによるまちづくり活動が盛んになりつつあります。このような活動も、主権者意識を育む上で重要な役割を担うものです。本研究室ではこれら活動に関わっているのですが、ここで

は日光市まちづくりアカデミーを紹介いたします。

「日光市まちづくり基本条例(二〇〇八年四月一日施行)第4条の2に、市民のうち、年齢満二十歳未満の青少年は、それぞれの年齢にふさわしいまちづくりに参画する権利を有する」とあります(まちづくり基本条例、自治基本条例で同様の規定を設ける地方自治体は多い)。日光市では、この条例の趣旨に基づき、アカデミーを二〇〇九年度から市内3高校(二〇一一年度より鹿沼高校も)の生徒を対象に開催し、高校生のまちづくりへの参画意識の醸成や人材育成に取り組んでいます。筆者は、講師及びコーディネーターとして協力していますが、このような機会の重要性を毎回強く感じているところです。

十八歳参政権をより良いものにしていくためにも、学校内外での体験的な学びの機会をつくっていくことが今後一層求められます。

まちびあ
から
書庫

PICK UP!

2050年。人口減少時代のライフスタイルに日本人の未来の働き方・生き方とは?

35年後の日本の人口は、9500万人(現在1億2千万人)規模にまで減少するそうですが、その頃の日本はどのような国になっているのでしょうか?

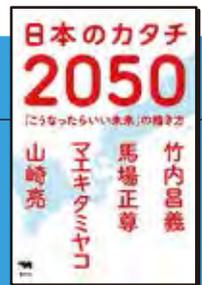
少子高齢化、東日本大震災などこれまで経験したことのない時代をいま私たちは生きています。このように環境変化の激しい時代、未来に向けて議論すべきこと、具体的にできることをなかなか思い描けないという方も多いのではないのでしょうか。

本書では、「コミュニティ」「新しい政治」「都市と地

方」「エネルギー」「働き方、生き方、豊かさ」という5つのテーマについて専門家4人が未来を検証しています。職業や立場が違うため、アプローチや表現方法は当然異なりますが、その根底にある意識のベクトルが同じ方向を向いているところは興味深いところです。

では、単に未来を予想するのではなく、未来を自分たちでつくるために何が必要か?

この一冊の中に「こうなったらいいよね」を実現するヒントがふんだんにちりばめられています。



「日本のカタチ2050」

「こうなったらいい未来」の描き方

山崎亮「コミュニティデザイン」
マエキタミヤコ「あたらしい政治とメディア」
馬場正尊「都市と地方のリノベーション」
竹内昌義「エコハウスとエネルギー」
昌文社 2014年8月発行

イベント情報

新年は「まちぴあ あそび初め」で 元気にスタート

日時 1月16日(土) 10:00～13:00

会場 宇都宮市まちづくりセンター まちぴあ

参加費 無料 **お問合せ** 宇都宮まちづくりセンターまちぴあ

宇都宮市まちづくりセンターまちぴあでは、子どもから大人まで、地域みんなが交流し楽しめるイベントを企画しています。今年もたくさんの方々のご協力のもと、「あそび初め」を開催します。

けん玉、かるた、竹馬……など日本古来のあそびを三世代交流で楽しく行います。餅つき大会も開催しますので、みなさん一緒に楽しみましょう!!



更新情報

まちぴあ登録団体の皆様へ『団体登録更新のお知らせ』

平成28年1月より新年度(平成28年4月～平成29年3月)の団体登録更新を受け付けます。更新がない場合、研修室利用などに不都合が生じますので、更新手続きはお早めをお願いします。

送付方法 団体登録書は、封書、FAX、来館にて受け付けています。

※減免申請書については、直接まちぴあ窓口までご提出ください

期 日 平成28年3月15日まで

まちぴあ最新情報にアクセス! <http://www.u-machipia.org>



まちぴあ新規登録団体 (2015年10月31日現在 登録団体数 243団体)

一般社団法人プチママン・アンジェ

子育ての孤立感・不安感の解消を図り、次世代を担う子どもを安心して産み育て、親子が心豊かな生活を送るための支援事業を行う

宇都宮プラス「ソサエティ」

音楽を通して個々の音楽性を高め、金管バンドの普及と、地域文化の向上、青少年の情操教育に寄与する

(特非) エネルギーヒーリング協会

代替・補完医療としての「エネルギーヒーリング」の施術ならびに普及と促進に関する事業を行い、心と身体の健康増進を図る

だいじstudio

小中学生を中心とした世代を対象に、放課後の居場所を提供し、「ものづくり」と交流を図ることで、社会性や自主性を育てる

健康民謡「和楽会」

郷土に伝わる日本民謡の保存・普及を通じて、地域文化の向上に寄与する

グリーンケアCafeうつのみや

グリーン(大切な人との死別等による悲嘆)を乗り越えて、日常生活に適応するために、参加者同士が支えあい、ケアする場を提供

地域包括支援センター峰・泉が丘

地域で暮らす高齢者の介護、福祉、医療など総合的に支える事業を行うと共に、ケアマネージャーの支援・指導等も行う

S.B.club

英会話のブラッシュアップに励むとともに異文化理解を深め、外国人への日本語教育など日本人との共生を推進する

英語リトミック

0歳～3歳の英語リトミック指導の活動を通じて、子ども達に豊かな感受性を育てる

(株) アイ企画 (小さな葬儀社・宇都宮)

本業を活かした社会貢献活動として、地域で暮らす高齢者に、終活セミナー・相談などを行い、老後の安心に寄与する

光と土のコミュニティ

里山整備・農地利用、自然、農作物の育成・地域通貨の勉強会等を通して、平和で安心できる持続可能な地域社会を実現する

地域交通を考える会

宇都宮市民が利用しやすい地域交通を考え、提案するなど改善へ向けて努力することを目的とする

親子サークル「ホリズム」

産前、産後のママへのフォローと赤ちゃんとのつながりを大切にコミュニケーションや情報交換の場を提供する



宇都宮市まちづくりセンター まちぴあ

(指定管理者: 認定NPO法人 宇都宮まちづくり市民工房)

〒321-0954 栃木県宇都宮市元今泉5丁目9-7

TEL.028-661-2778 / 028-661-2779
FAX.028-689-2731

E-mail: info@u-machipia.org URL: <http://www.u-machipia.org>

開館時間 午前9時から午後9時30分まで(日祝は午後5時まで)

休館日 年末年始(12月29日～翌年1月3日)

臨時休館(施設点検等)

JR宇都宮駅東口から徒歩15分 駐車場28台

まちぴあ情報紙の音訳版もございます。ご希望の方はまちぴあまでご連絡ください。